

英語表現の効果的な指導のための工夫

久松 功周 松浦 伸和 小野 章 池岡 慎
川野 泰崇 千菊 基司 多賀 徹哉 林 典代
松島 浩司 幸 建志

1. はじめに

平成19年に改定された学校教育法により、学力要因の1つとして思考力・判断力・表現力が組み込まれた。その後改訂された学習指導要領ではいずれの教科においてもそれらの能力の育成を図ることとなった。通教科で付けなければならない汎用的な学力である。英語教育も例外ではなく、高等学校でもあらゆる科目でそれを目指すことが求められている。その中でも特に中心となるのが「英語表現Ⅰ・Ⅱ」である。

思考力・判断力・表現力は密接に関連しているが、英語科においてはその認識が十分とは言えない。とりわけ「表現力」を「話すこと」「書くこと」などのコミュニケーション能力、あるいは外国語表現の能力と同等に解釈していることが多い。ここでの表現力とは、思考・判断したことが現れるように表現する能力を指し、“Where do you live?” “I live in Fukuyama.”といった単なる日常会話のような力を指すものではない。もちろん、英語教育の中核的な目標であるコミュニケーション能力の育成には後者も含まれることは当然である。しかし、それは法令で規定している「表現力」とは異なっていることを十分認識しておく必要がある。

思考・判断とは「深く考えて決める」ことである。それには深く考えなければならないタスクが必要となる。従来、英語教育では指導内容やタスクの内容に関してあまり配慮してこなかった。発達段階に合った内容を扱ってこなかったと思われる。さらにはlanguage artsの点から表現形式や表現方法に関して英語を見つめる機会も少なかったように思える。しかし本当の意味で思考や判断を伴う活動を目指そうと思えば、おのずとそれらへの配慮が不可欠である。

今回の改訂は、グローバル社会において求められる英語教育の在り方を、指導内容を中心として見つめなおす絶好の機会として受け止めたい。

2. 研究の目的

平成25年度より施行された高等学校学習指導要領解説（以下『解説』）によると、新しく設定された科目である英語表現においては、論理的に表現する能力の育成が求められており、その中で論理構成、表現の方法の工夫を生徒が用いることができるようになることが期待されている。パラグラフライティングなど、まとまりのある英文を書く指導はこれまでも多方面で行われてきているが、文章の書き方が読み手にもたらず効果を思考・判断し、それを表現するための指導という点においては、指導方法が十分に確立し、広まっていると言いはし難い。そこで、本研究では「論理構成及び表現の方法の工夫しながら伝える力」に焦点を当て、その実践報告を行い、具体的な指導の参考となることを目的とする。

3. 思考・判断・表現力を養う「英語表現」の指導の考察

『解説』によると、「外国語に関する科目の改訂の要点」において、英語表現Ⅰは、「事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う科目である」と記述されている。

この指導をする上で、何を「工夫」とするのかを定めておく必要がある。『解説』によると、「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力」とは、「文章の構成を考え、話したり書いたりして、相手に伝える能力を意味する」と記述されている。したがって、学習指導要領における外国語科の目標を踏まえて考えると、「英語で表現をするにあたって、場面や状況、背景、相手の反応などを踏まえた上で、妥当な文章構成を用いること」であると考えられることができる。

また、それらの工夫がもたらす効果として、例えば、説得力を高める、というのもその一つであるし、その

表1 指導の概要

学期	指導した文章構成の工夫など	目的
1 学期	1. 先行調査	生徒の課題の把握
	2. 基本的な文章構成の仕方	英語の基本的な文章構成の仕方の理解
	3. 具体的な台詞などを冒頭に用いる	読み手の注意を引くための導入部分の書き方の理解
	(課題) 広島県英作文コンテスト	実践練習
夏季休暇	(課題) 全国英作文コンテスト	
2 学期	4. 疑問文を冒頭に用いる	読み手の注意をひくための導入部分の書き方の理解
	客観的なデータを用いる	自分の主張を客観的にサポートするための書き方の理解
	(活動) ピア・レビュー	文章構成が異なる事による差異の理解
	5. 対比, 逆接を用いる	自分の主張を展開したり, 説得力のあるものにしったりするための書き方の理解

他には、読み手、聞き手の注意を引き付けるための工夫なども挙げられる。こういった、「工夫」とその「効果」を考えながら英語で事実や意見などを伝えられるように指導を行いたい。

4. 実践内容

4.1 指導計画

「英語表現」においては、「場面や状況、背景、相手の反応などを踏まえた上で、妥当な文章構成を活用することができる力」を「話すこと」、「書くこと」を中心として身につけさせることが主眼となる。本研究においては、秋に行われる各種校外英作文コンテストを目標として設定することが生徒の動機づけの上でも妥当と考え、「書くこと」の指導から始めることとした。

まず、生徒の学力把握を目的に“What I am looking forward to in my high school days”というトピックで100語程度の英作文を書かせた。そこから見えた課題としては、英作文の途中で、「自分が高校生活で期待するもの」というテーマから関連のない内容になってしまう傾向が見られた。

そこでまず、一貫性のある文章を書く指導として、冒頭で一番主要なテーマ（主題）を書き、そのあとにテーマに関連した具体的事例を書くという基本的な英語の論理構成（大井, 2000, pp.20-22）を指導した。その後、その文章構成をもとに、読み手の注意を引き付けるための工夫として、文章の導入部分の書き方を2種類、意見文を書いていくための工夫として、文章の中で支持文にあたる部分の書き方を2種類指導した。

また、読み手の存在を意識しながら書くことの重要性を鑑みて、ピア・レビューを2学期に行った。（表1参照）

4.2 文章構成や表現の工夫の指導

授業内での文章構成の工夫の指導手順として、①指導内容となる工夫が用いられたモデル文を読ませ、概要把握を行う、②発問や別の英作文との比較を通して、扱う論理構成によってどのような効果（興味を持って読めたかどうか、説得力があるかどうか）があったのかを生徒から引き出す、③その効果をもたらすための論理構成の仕方をまとめる、④授業で扱った論理構成を用いて英作文を書く、という順序で行った。

生徒には英作文を書く前に、自分の英作文のあらすじを図1にあるチャートを用いて、まとめさせてから英作文を書くように指導をした。これは、先行調査で見られた、英作文の途中でテーマとは関連のない内容になってしまわないように、自分の英作文の骨組みを意識して書くことができることを期待したものである。

生徒に英作文を書かせた後は、授業で指導した文章構成の工夫を英作文に活用出来ているかどうかの確認を目的として、生徒の提出した英作文を表2の評価基準に従って評価を行った。評価に際しては、授業の中で指導した論理構成の工夫をしているかどうかを問うものにして、文法などの間違いに関しては、ゆるやかな評価をするにとどめた。以下に示している評価基準のOrganizationに記述されている英作文の特徴としては、冒頭に具体的な台詞などを用いるなどの読み手の興味を引き付けるような工夫をして書いているものがA、工夫は特に見られないが、主題について具体的な内容を書くことが出来ているものがB、自分が設定した主題とは関連のない内容を書いているものがCとなる。この評価基準は指導する内容に応じて、微調整を行った。

校外英作文コンテストを除き、計5回、文章構成や

表現の方法の工夫を指導し、英作文を書かせたが、3回目の指導として行った、「具体的な台詞などを冒頭に用いること」の指導を例として挙げたい。以下の文章は、広島県英作文コンテストで優良賞を受賞した作文である。“My Biggest Achievement”というテーマで読み手の興味を引き付ける工夫が効果的に用いられているため、指導する際のモデルとして適切であると判断して使用した。

I heard “*na*” and stretched out my right arm for the card. The other player flew the card. At the same time, I heard “*ni wa ga ta*” . That was different from the card he flew. This happened in an instant. I couldn’t believe, but I won!

On the day, I entered a *karuta* competition. Actually, it was my third time to take part in it..

表2 評価基準

Grade	Accuracy	Organization
A	文法・語法などを概ね正しく用いて書いている。	文章構成に工夫を加えながら首尾一貫した内容を書いている。
B	文法・語法などに誤りが見られるが、理解できる範囲で書いている。	基本的な文章構成を用いて、首尾一貫した内容を書いている。
C	内容の理解が困難である。	主題と内容が首尾一貫していないなど、論理性に問題がある。
D	指定語数以上書いていない。	指定語数以上書いていない。 内容の理解が困難である。

STEP 2	Write down the outline of the passage.
Introduction()
Topic:)
Example ()
Reason, details etc..)
Conclusion)

図1 文章構成を示すチャート

この筆者は、百人一首大会の様子を描写しているのだが、読み手は、最初に何の話であるかがイメージできず疑問を抱き、それが興味付けの工夫となっている。この工夫を指導するにあたって、英文の概要の理解をQ&Aを用いて確認した後、読み始めた時に思った事、感じたことをペアワークで共有させた。生徒からは「何の話がよく分からなかった」や、「にわがたとカードがどう結び付くのか分からなかった」という発言があり、冒頭部分に自分の具体的な感想や台詞などを書くことが読み手の注意を引く工夫になることをまとめ、英作文活動へと展開した。

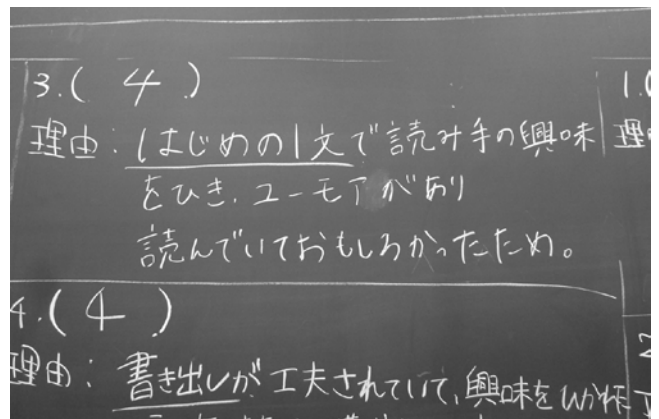


図2 授業中の生徒の意見

4.3 ピア・レビュー

4.3.1 目的

『解説』に「場面や状況、背景、相手の反応などを踏まえて、自分が伝えたいことを伝える」とあるように、英作文を書く際には情報の受け手が考えること、感じることを予想しながら書くことが重要であると言える。そこで、仲間と互いの作文を読み合う事により、ライティングという行為は常に「読み手」がいるのだということを実感させること（大井, 2000, pp.52）を目的として、ピア・レビュー活動を行った。

4.3.2 活動の実際

任意の1クラス(40名)に、以下の手順で指導を行った。

- (1) 生徒に英作文(10編)を配布
- (2) 以下の指示で読ませる。
「あなたは出版社に勤めています。編集長から、渡された10篇の英作文の中から、雑誌の見開きを飾るのにふさわしいインパクトのある作文を選ぶように伝えられました。まず、25分の間に、個人で2編候補を選んでください。」
- (3) 自分が選んだ候補を持ち寄って、5～6人1グループで最終的な代表作品をその理由とともに1編決める。

最終的には、7グループのうち、6グループがある2つの英作文が適切であると判断した。生徒の意見としては、書き出しの工夫に言及するものが多かった。

4.3.3 活動後の感想

授業後、感想を書かせるアンケート調査をしたところ、「実際に読み手の立場を体験すると、英作文のインパクトの重要性が分かった」、「読み手の考えを考えずに書いていたことに気付いた」、「読む側の気持ちに

なっているいろいろな新しいことに気付くことができた」などの反応があり、また、これまでの学んできた文章構成の工夫がどのような効果をもたらすのかを体験的に理解させることができたことが窺える。

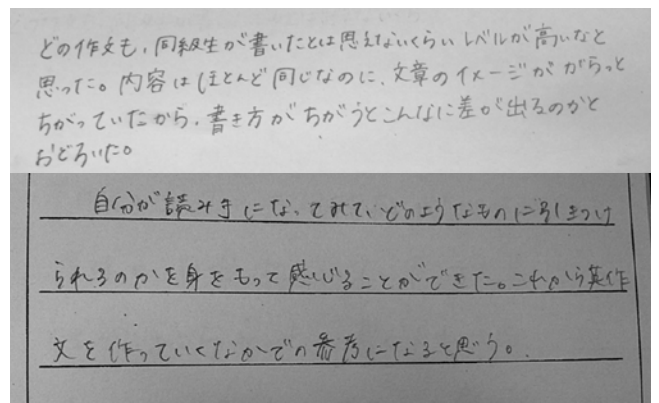


図3 生徒の感想

5. 指導結果の考察

5.1 方法

本研究で扱われている英作文の指導については、第1学年5クラス全てのクラスにおいて行ったが、実際の評価については研究実施上の実際的な制約から、同一教員の担当する2クラスに、英作文を書くタスクを与えて評価を行った。英作文のトピックについては以下の通りである。

- A: 学校が海外からの長期留学生の受け入れを開始するとして、海外からの留学生向けに、学校の英語版ホームページ上に載せる、学校行事などの紹介文を100～150語で書きます。
- B: 4月に行われる新入生歓迎行事で、あなたは留学生向けに、英語で学校行事などのスピーチ(紹介)を行います。そのスピーチ原稿を100～150語で書きます。

一方のクラスにトピックA、もう一方にトピックBを割り当てて、英作文を書かせた。また、解答用紙に備考欄を設けて、英作文を書く際にどのような工夫を用いたのかを併せて書かせた。その後、指導した文章構成の工夫に従って、その特徴がみられる英作文を分類した。

5.2 考察

以下が分類の結果である。

表3 トピックAの英作文の特徴 (全36作品)

英作文の特徴	サンプル数
具体的な台詞などを冒頭に用いる	1
疑問文を冒頭に用いる	6
客観的なデータを用いる	0
対比、逆接を用いる	1

表4 トピックBの英作文の特徴 (全37作品)

英作文の特徴	サンプル数
具体的な台詞などを冒頭に用いる	5
疑問文を冒頭に用いる	14
客観的なデータを用いる	1
対比、逆接を用いる	0

以上の結果を見ると、トピックBにおいて、情報の受け手の興味を引き付けるような工夫として、具体的な台詞や疑問文を冒頭に用いている生徒が多いことが分かる。解答用紙の備考欄にも、40名中11名の生徒が、疑問文を用いて注意を引き付けるということに言及していた。これは、疑問文を冒頭に用いる工夫の指導の中で、聞き手の興味を引き付ける文章構成の工夫はスピーチにおいてよく使われるということを指導した効果を反映していると考えられる。

一方で、トピックAにおいては、こういった工夫はあまり見られていない。備考欄の記述において、39名

中11名の生徒が簡潔に書くことを意識した、と書いていることから、留学生向けのホームページ上に載せる説明調の紹介文であることを踏まえて、必要な情報だけに絞って簡潔に分かりやすい文章を書こうとしたことが窺える。

客観的なデータや、対比、逆接を用いる工夫については、意見文などの説得力が求められる言語の使用場面ではないため、その工夫を用いる生徒が少なかったと考えられる。これらの工夫を用いた生徒は、他校との比較を通じて、学校行事の特徴を強調したり、生徒会長の選挙の規模の大きさを表すために、数値を用いていた。

これらの結果から、生徒が与えられたトピックについて、場面や目的を考えて、学んだ文章構成の工夫を活用しようとしている様子を見てとることができる。

6. 今後の課題

今回の指導を通して、生徒が読み手や言語の使用場面を意識しながら、文章構成や表現の仕方を工夫する力を身につけるにあたって、一定の効果が見られた。しかし、研究の考察において行った英作文のタスクにおいて、少数ではあったが、「ホームページ上で学校行事を紹介する」という場面設定には不適切な英作文や、指導の中で学んだ工夫を活用しようとするがあまり、逆に文章の一貫性を欠いている英作文も見られたことから、継続的な指導の必要性を感じさせられ、今後も身近な言語の使用場面と適宜結び付けながら、生徒が読み手を思い浮かべながら英作文を書くという機会を十分に与えていく必要があると考えられる。

引用 (参考) 文献

- 1) 『高等学校学習指導要領』(平成21年3月) 文部科学省
- 2) 『高等学校学習指導要領解説』(平成21年3月) 文部科学省
- 3) 『パラグラフ・ライティング指導入門』(平成20年8月) 大井恭子, 田畑光義, 松井孝志 大修館書店

資料1 英作文のタスク（トピックBのもの）

○以下の場面と指示を踏まえて、100語～150語の英語で書きなさい。裏面に記入欄があります。

<場面>

来年度から海外からの留学生を受け入れることになりました。4月に行われる新入生歓迎行事で、あなたは留学生向けに、英語で学校行事などのスピーチ（紹介）を行います。そのスピーチ原稿を書きます。

<指示>

以下から、紹介するものを1つ挙げて書きなさい。

- ①学校行事について
- ②学友会について
- ③部活動について
- ④委員会活動について

<参考>

必要に応じて参考にしてください。また、例から一つを取り上げて紹介してもかまいません。

①学校行事 (School Events)	<u>例</u> オリーブ祭 (Olive festival) 体育祭 (Sports Day) 夏のキャンプ (Summer camp) 学友祭 (School Festival) 球技大会 (Ball game) 自治会行事 (Students' activities) など
②学友会 (Students' Association)	<u>例</u> 学友会本部 (Students' Association) 学友会総会 (General Meeting) 学友会会長・ 副会長選挙 (Election) など
③部活動 (Club Activities)	<u>例</u> 各クラブ
④委員会活動 (Students' Committee)	<u>例</u> 各委員会

Write down the passage. (100~150 words)

The school has many kinds of events. For example, Olive festival and Sports Day. Each events are took place in spring. Of course, students prepare all plans of the events.

Olive festival is held in April. The students join the events before they become friends. But through it, they become friends easily. This is the aim of Olive festival. In the events, students play long rope and see an introduction of club activities.

Sports Day is held in May. There is four teams, red, blue, green, white, and they compete with other color team for the top by their score. They compete in "pulling the rope" "relay race" and so on.

There are many other events in the school. And all the events are enjoyable. So, let's join the events with the students!

(144) words

図4 生徒の作品 (トピックA)

Write down the passage. (100~150 words)

Do you want great school life? You will be able to have a great time in this school.

You will be able to enjoy many School Events.

Sports Day is one of them. There are four teams, which are blue, red, green and white. Each of the teams plays the unique sports very hard.

Our school's Sport Day is run by not the teachers but the students. This is our school's Sport Day's original feature. It is difficult to be run by only the students but it is fun. You can expect to be interested it.

Let's enjoy our school life together.

Thank you for listening.

(106) words

図5 生徒の作品 (トピックB)